

彙 報

第二八回総会及び研究集会

本簡学会第二八回総会及び研究集会は、二〇〇六年二月二・三日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂・小講堂において、一六二名の個人会員、一団体の団体会員、及び二名の海外会員の参加を得て開催された。会場には藤原京跡左京七条一坊出土木簡・西大寺食堂院跡出土木簡（以上、奈良文化財研究所）、滋賀県西河原宮ノ内遺跡出土木簡（財滋賀県文化財保護協会）、徳島県観音寺遺跡出土木簡（財徳島県埋蔵文化財センター）、難波宮跡出土木簡レプリカ（財大阪市文化財協会）などが展示されたほか、奈良文化財研究所開発の木簡解説ソフトMokkan Shopの実演も行なわれた。

◇二〇〇六年二月二日（土）（十三時～一八時）

第二八回総会（議長 清田善樹氏）

栄原永遠男会長の開会挨拶の後、議長を選出し、以下の報告が行なわれた。

会務報告（渡辺晃宏委員）

会員の状況（個人会員三四三名、団体会員三団体、二〇〇七年度の新入会員五名）、会員サービス、会誌販売について報告があった。また、

九州特別研究集会実行委員長の坂上康俊委員より、二〇〇六年九月一五・一六日に開催した同研究集会の実績報告があった。

編集報告（櫛木謙周委員）

『木簡研究』第二八号の編集について報告があり、頒価を五〇〇〇円とする提案が行なわれた。また、『木簡研究』への原稿募集について説明がなされた。

会計・監査報告（吉川聡委員・西山良平監事）

吉川聡委員より二〇〇五年度会計（一般会計及び特別会計）の決算が報告され、これについて西山監事より会計処理が適正に行なわれている旨の監査報告がなされた。前年度以前と比較して良好な状況にあり、会誌収入も持ち直したと評価された。ただ、予算よりも決算額が少なく、会議費・編集費の未執行について改善されたいとの意見が付された。

引き続き、吉川聡委員より二〇〇六年度予算案が提示された。

以上の案件は、すべて原案通り承認された。その後、渡辺晃宏委員より大和北道路の現状についての説明があり、寺崎保広委員より「平城宮・京跡の木簡の保存を訴える声明」の案文が読み上げられ、承認された（二五〇・二五一頁の会告を参照）。引き続き、役員改選が行なわれ、立候補者がいなかったため、古尾谷知浩委員より全員留任の提案があり、拍手により承認された。

研究集会

報告(司会 鷲森浩幸委員)

大宝令施行直後の衛門府木簡群―藤原京跡左京七条一坊西南坪出土木簡をめぐって―
市 大樹氏

二〇〇六年全国出土の木簡

浅野啓介氏

市氏の報告は、藤原京跡左京七条一坊出土の木簡群について、従来は中務省に関する木簡群であるとしていた見解を修正し、門勝木簡を含んだ衛門府に関わる木簡群とした報告である。従来知られていた門勝木簡のほかに、門勝申請木簡に中務省が決裁文言を追記することにより門勝木簡として機能するタイプのものがあることを指摘した。また出土地点を衛門府に比定し、それ以後の平城京・平安京においても衛門府は一貫して宫外官司であったことを考証した。報告に引き続き、門勝木簡や門号、衛門府をめぐって活発な議論が行なわれた。

浅野氏の報告は、二〇〇六年出土木簡を紹介するもので、七三件の木簡を取り上げた。

右記の報告のうち、市氏の報告は論文として本誌に掲載することができた。浅野氏の報告で取り上げた木簡の多くも報文として掲載することができた。ご協力頂いた方々に厚くお礼申し上げる。

◇二月三日(日)(九時―一五時)

研究集会

報告(司会 吉江 崇委員)

観音寺遺跡(二〇〇五年度)の調査について

大橋育順氏

観音寺遺跡(二〇〇五年度調査)出土木簡

和田 萃氏

滋賀県野洲市西河原宮ノ内遺跡(七次)の調査

畑中英二氏

野洲市西河原宮ノ内遺跡出土の木簡について

大橋信弥氏

難波宮跡の調査と万葉仮名木簡

藤田幸夫氏

西大寺食堂院跡の井戸と出土木簡

渡辺晃宏氏

大橋・和田氏の報告は、徳島県国府町所在の観音寺遺跡の調査概要と勘籍木簡を含む二〇〇五年度出土の木簡について紹介したもの、畑中・大橋氏の報告は、滋賀県野洲市所在の西河原宮ノ内遺跡(七次)の調査概要と七世紀末から八世紀初頭前後の貸稲に関する木簡群について紹介したもの、藤田氏の報告は、難波宮跡から出土した七世紀中頃の万葉仮名木簡の紹介、渡辺氏の報告は西大寺食堂院跡から出土した寺院運営に関わる木簡群の紹介である。報告終了後、前日総会で了承された平城宮・京跡木簡の保存声明案につき、字句を修正したものが配布され、渡辺晃宏委員による説明の上、参会者の承認を得た。また昼の休憩時間には、インターネットによる韓国城山山城木簡の写真閲覧システムの紹介が行なわれた。

全体討論(司会 山中 章委員)

二日目の報告内容について、さまざまな観点から積極的な質疑・討論が行なわれた。最後に館野和己副会長の挨拶により閉会した。

委員会・役員会報告

◇二〇〇六年二月二日(土) 一〇時半―一二時

於奈良文化財研究所小講堂

総会・研究集会に先立ち委員会を開催した。榊木謙周委員から会誌第二八号の編集経過について報告があり、頒価を検討した。また、事務局から諸会務についての報告があった。

引き続き一一時より、二〇〇六年度役員会を開催した。総会・研究集会、会誌第二八号の編集、会務、会計について報告があり、評議員の方々からご意見をたまわった。

◇二〇〇七年六月六日(水) 一四時―一七時

於奈良文化財研究所小講堂

以下の案件について、報告・協議が行なわれた。

1 会務について。常任委員の委嘱、会員の異動、常任委員会などの開催、韓国木簡学会との資料交換について報告があった。2 入会審査。入会申込者八名についての報告があった。3 九州特別研究集会実績報告。実績報告書の提出を受けて会計などの報告があった。

4 二〇〇六年度会計報告・監査報告。会計、監査の報告および会誌販売促進策などについての議論が行なわれた。5 『木簡研究』第二九号の編集について。編集体制・編集状況について報告があった。

6 第二八回総会・研究集会について。日程および内容の確認、韓国木簡学会との交流について報告が行なわれた。7 三〇周年記念事業

と次期特別研究集会。研究集会を三〇周年記念と銘打ち一般向けシンポジウムを付加して実施する方向で検討することを確認し、特別研究集会は予定通りに二〇一〇年に実施することを確認した。8 大和北道路問題と平城京遷都一三〇〇年祭問題。現状について情報交換を行なった。

◇二〇〇七年一〇月二日(月) 一四時―一七時

於奈良文化財研究所管理部会議室

以下の案件について、報告・協議が行なわれた。

1 会務について。会員の異動、常任委員会などの開催、韓国木簡学会との交流、名簿の作成について報告があった。2 入会審査。新入会申込者八名について、第二回委員会に引き続き審査を行ない、八名全員について入会を承認した。3 会計報告。二〇〇七年度会計中間報告があった。また、二〇〇八年度予算案を検討した。4 編集報告。『木簡研究』第二九号の編集状況について報告があった。5 第二九回総会・研究集会について。一二月に開催する本年度の総会・研究集会の内容について検討し、実施要項を決定した。また、韓国木簡学会会長一行の招聘について、役割分担などを決定した。6 三〇周年記念事業。第二回委員会で検討した記念事業を、二〇〇九年度研究集会において実施することを決定した。7 次期特別研究集会。候補地の選定を行ない、仙台を最有力候補地とすることにな

(鶴見泰寿)